

会派視察研修計画書

平成30年6月1日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	鈴木 みのり ・ 小池 友妃子		
日時	平成30年8月1日（水）～平成30年8月3日（金）		
視察先	8月1日（水）	北海道室蘭市	
	8月2日（木）	北海道由仁町	
	8月3日（金）	北海道岩見沢市	
研修内容	室蘭市・・・観光行政の取り組みについて 由仁町・・・防災対策の取り組みについて・表敬訪問 岩見沢市・・・病院経営の取り組みについて		
日程	8月1日（水）	北海道室蘭市	14:00～16:00
	2日（木）	北海道由仁町	13:30～15:00
	3日（金）	北海道岩見沢市	10:00～12:00
交通手段	公共交通機関利用 <input checked="" type="checkbox"/> 航空機利用	自家用車利用 _____ 台	
	乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	所有者名（ _____ ）	

様式 1 4

会派視察研修報告書

平成30年 9月 13日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	鈴木 みのり ・ 小池 友妃子
日 時	平成30年8月1日（水）～平成30年8月3日（金）
視 察 先	8月1日（水） 北海道室蘭市 8月2日（木） 北海道由仁町 8月3日（金） 北海道岩見沢市
研 修 内 容	室蘭市・・・観光行政の取り組みについて 由仁町・・・防災対策の取り組みについて・表敬訪問 岩見沢市・・・病院経営の取り組みについて
日 程	8月1日（水） 北海道室蘭市 14：00～16：00 2日（木） 北海道由仁町 13：30～15：00 3日（金） 北海道岩見沢市 10：00～12：00
備 考	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

平成 30年 8月 6日

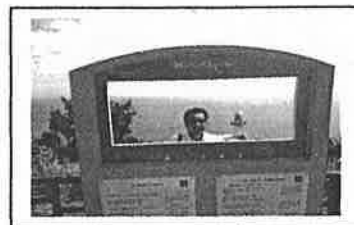
議員氏名 鈴木 みのり

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 30年 8月 1日（水）～平成 30年 8月 3日（金）
- 2 視察先 北海道 室蘭市・由仁町・岩見沢市
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

日本中が異常気象の中、北海道もご多分に漏れず30度超えの3日間でした。まず初めは室蘭市の「観光行政の取り組み」について研修をしました。下の写真は有名な“地球岬”での顔出しパネルですが、こういった名所や人工的な夜景が有るにも関わらず、観光資源が少ないので、と佐賀事務局長から説明をされた時は、驚きました。また、室蘭観光推進計画は平成元年に作成されたようですが、その経緯は不明との事でした。最近では「撮りフェスin室蘭」という、室蘭を日本一の撮影の聖地に！を目標に、予算も付けずに、民間の力のみで行っている事には驚かされました。次に向かったのは、由仁町で言わずもがな、友好姉妹都市です。研修課題は「防災施策の取り組み」についてと、私自身が初めての訪問でしたので表敬の意味からもホントに良かったです。後半には松村町長も参加しての懇談も出来ました。防災に関しては基本、地方自治の一般的な施策が多かったと思いますが、一転“特設公衆電話”の話は当市には無いので早速取り入れたらと思います。因みに安城市には有るようですが。また、吉田副議長からは、災害対策本部には議会は参画しない旨の説明がユニークでした。最後は今回の私のメインディッシュの「岩見沢市立病院」の経営の取り組みについて研修しました。人口も、病院の病床数や、病床利用率・診療科目数などはほとんど変わらず、看護配置が10：1であったり、在院日数は碧南の12.3に対して18日、医師一人の患者数は碧南の4.2に対して6.0といった所が多少違うのかなと感じました。ただ、決定的には、一人の医師の年間売り上げが多い時は2.1億円ほどと、碧南市の1億円に満たない数字とは大きく違う所でした。そこでどうしたら、そこまでの数字が出るのか？何か特別な医療行為や検診事業をしているのかお聞きした所、「何もありません、ただただ、ガムシャラに職員全員が働いてくれてるだけです」と言われ何も言えませんでした。



会派視察研修報告書

平成 2 8 年 9 月 1 3 日

議員氏名 小池 友妃子 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 3 0 年 8 月 1 日（水）～平成 3 0 年 8 月 3 日（金）
- 2 視察先 北海道室蘭市、北海道夕張郡由仁町、北海道岩見沢市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

①北海道室蘭市・・・観光行政の取り組みについて

1) 室蘭観光の現状について

室蘭市観光名所は自然景観がほとんどで有料の観光施設が少ない。そこで室蘭市での観光の取り組みとして観光以外の資源を観光化する取り組みを実施。（例えば、夜景見学バスやナイトクルージング等）

2) 室蘭観光入込客数の推移について

現在、観光入込客数は 1 2 0 万人で推移しているが、頭打ちに来ているとも感じている。しかし、外国人宿泊者数は近年急増している

3) 室蘭観光推進計画について

・平成元年に「室蘭観光振興計画」は作成され、2 度改訂されている。

・【5 つの基本的な考え方】

- ①地域個性を活かした観光のまちづくりの推進
- ②観光による消費の拡大
- ③多様なニーズに対応できる受け皿づくりの推進
- ④観光情報の充実
- ⑤広域連携による観光の推進

・「市民が地域を知ることからはじめるまちづくり」という意識のもと、室蘭における観光の意義を確認し、室蘭市の観光振興の理念や将来的な方向性を示すことで、魅力的な観光のまちづくりを推進することの計画を目的として策定された。

4) 今後の課題について

新たな観光資源と既存の観光資源、潜在的観光資源の掘り起こしを行い、豊かな自然環境と「ものづくりのまち」としての特性を活かしていく事で、滞留・潜在型を目標とした「室蘭観光」が、多くの観光客のニーズに対応できるよう様々な媒体を通じ発信していくことが課題。

5) 視察を終えて

観光名所には10人くらいの市民ボランティアが無料案内をしたり、町のいたるところで無料Wi-Fiが飛んでいて、観光客対応を考えていた。室蘭市では観光で稼ぐと言う意識をもち、観光客自らが商店街などでお土産を購入したり、食事をしたりしてお金を落としてくれるようにするために、若い方や外国人対応もその観光客自身を大切にしている。碧南市でも観光に力を入れているが、観光する方がどうしたら碧南市に来ていただけるかを再度考える必要があるのではと感じた。



(室蘭市議場にて)

②北海道夕張郡由仁町・・・防災対策について

1) 地域防備蓄整備方針について

方針策定のきっかけは、東日本大震災。平成25年度に北海道地域づくり総合交付金（北海道単独で補助率1/2）を利用し整備方針策定。現物備蓄として、想定避難者数300人3日分の食料、衣類などを整備することにした。自助することが必要と言うことの住民への周知方法は、防災ハンドブックの配布とホームページでの掲載や出前講座で周知を図った。

2) 特設公衆電話について

【特設公衆電話とは】大規模災害時に誰でも無料で使用することができる公衆電話サービス。公共施設、オフィスビル、駅、コンビニ等に設置されている。大規模災害時には一般電話より優先的に通話が可能となる。（H30.9.9に発生した北海道胆振東部地震でも、その効果が発揮されている。）

3) 行政・民間・住民との連携について

自助・共助・公助の理念に基づく役割分担を着実に実施し、町民の責務として、平常時の備え、災害時の対策をお願いしている。また災害時に備えて民間企業等との連携協定を行っている。

4) 今後の課題について

継続的な防災訓練を実施し、町民の防災意識の向上と防災知識を取得していくこと、災害対策本部訓練の実施、避難勧告などの発令時の訓練や講習をしていくことが必要。

5) 視察を終えて

様々な状況を考えた具体的な実地訓練は必要。また特設公衆電話の重要性を、北海道胆振東部地震発生で効果が出たことによっても今後碧南市でも取り入れていくことが非常に必要ではないかと感じた。



(由仁町役場玄関前にて)

③北海道岩見沢市・・・病院経営の取り組みについて

1) 岩見沢市立総合病院の概要について

診療科：内科、消化器内科、外科、小児科、産婦人科、精神神経科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科 合計15診療科
・病床数484床（一般：365床、精神：115床、感染：4床）
・外来透析数70床
・看護体制10対1

南空知地域保健医療福祉圏域内（北海道の中央南西部にある、夕張市、岩見沢市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町及び月形町の4市、5町）において、救急医療、小児医療及び高度医療などに対応可能な地域センター病院として、圏域内の中核的な役割を担っているほか、災害拠点病院、地域周産期医療センターにも指定されている。

2) 岩見沢市立総合病院新改革プランについて

平成27年3月に総務省から「新公立病院改革ガイドライン」が示され、新たな公立病院改革プランの策定が要請されたため、「新公立病院改革 ガイドライン」において策定要請している事項のうち、不足している部分である「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」など、新公立病院改革プランに不足している部分を追加された。また「岩見沢市立総合病院経営計画」策定時に設定した収支計画などが状況の変化に伴い乖離していたため、目標値として相応しいものとなるよう見直されました。

3) 公立病院としての位置づけと健全な病院経営のバランスについて

岩見沢市民総合病院は、南空知圏域において救急医療、小児医療及び高度医療などに対応可能な地域センター病院として、圏域内の中核的な役割を担っているほか、災害拠点病院の指定、地域周産期母子医療センターの認定を受けており、岩見沢市はもとより、南空知圏域から多くの入院患者や外来患者を受け入れている。また、近年は、地域の医療事情などから救急患者の受け入れも増加しており、地域において、救急医療における岩見沢市民総合病院の役割が増大している。

経営状況は平成6年度から22年連続で黒字を確保するなど、比較的良好な状況を維持している。

4) 今後の課題について

岩見沢市の二次救急については、これまで北海道中央労災病院と岩見沢市立総合病院で24時以降を対応していたが、平成28年4月より岩見沢市立総合病院のみとなった。この状態が続くと二次救急医療機関としての本来業務に支障がでてしまうので、今後は救急医療体制を再構築することが課題。

また、病院事業が現在、地方公営企業法の財務規定のみを適用しているが、今後は地方公営企業法の財務適用を基本としながら、全部適用への移行を検討していくことが課題。

5) 視察を終えて

岩見沢市立総合病院も、経営は良くなかった。しかし3代目市長が徹底的な意識改革に努め、医院長も経営まで把握するようになり平成4年から黒字が続くようになった。医師の確保も北海道大学と札幌医科大学に積極的に足を運び医師の確保に努めていた。また看護師等の女性スタッフのために院内保育所を充実させ、育児休業給付金制度も設けている。市長、医院長の経営に対する思いが市民病院に携る皆様にも伝わり、黒字経営となったのだと考えられる。



(岩見沢総合市民病院玄関前にて)